

出題方針と講評

各教科の出題方針についての要約を、説明と、学習塾「仙台あおば学会」の講師陣による講評をまとめた。

令和2年度 宮城県公立高等学校 公立高校入試講評

仙台あおば学会 講師陣による 公立高校入試講評



仙台あおば学会から 10年分のありがとうを。

2018 年度塾生全体の 公立高校 合格実績 93.8%

あおがく10年間の 公立高校 合格実績 91.2%

今年も、あおがくの 公立高校入試講評が 読売新聞に、 掲載されました。

今年も、あおがくの公立高校入試講評が読売新聞に、掲載されました。

2020年(令和2年)3月5日(木曜日)

読売新聞

国語

第1問では、基礎的な漢字や熟語の構成などについての知識のほか、聞き手にとってわかりやすく話す工夫など、話す力をみた。第2問は、登場人物の心情や表現の効果などを読み取り、適切に表現する力をみた。第3問では、書き手のもの見方や考え方を的確に捉え、適切に表現する力をみようとしたりした。第4問では、古典の基礎的な事項の知識・理解を基に、内容を把握する力などをみた。第5問では、投書の内容を踏まえ、自分の考えと、その理由を具体的に書くことにより、課題から発想する力及び自分の考えを適切に表現する力をみた。

数学

第1問では、数と式についての基礎的な知識と計算力、文字式の正負を判断する力、基本的な図形の性質から面積を求める力をみた。第2問では、条件から連立方程式を立てて処理する力、起こり得る場合を順序よく整理し考察する力などを試した。第3問では、マラソン大会を題材とし、相対度数を求める力、度数分布表から判断した事柄の根拠を表現する力、変わる二つの数量の関係を論理的に考察する力などをみた。第4問では、三角形と比の定理の逆を用いて四角形が台形であることを証明する力、証明で得られた結果を基に図形の性質を論理的に考察する力などをみた。

社会

第1問では、オセアニア州の国々の様子と貿易の特徴を題材とし、地図や資料から情報を読み取る力をみた。第2問では、古代から近世までの日本社会の様子と文学を題材とし、幕府の政策と株仲間への役割について考察、適切に表現する力をみた。第3問では、企業の役割と労働者の権利を題材とし、働きやすい職場づくりの工夫と企業の社会的責任について表現する力をみた。第4問では、東海地域の工業の特徴を題材とし、今後の発展について資料を基に考察する力をみた。第5問では、日本の鉄道を題材とし、近代から現代までの歴史に関する知識をみた。

英語

第1問では、絵を見ながら短い会話を聞き内容を理解する力、インタビューを聞いて内容を理解し質問に適切に回答する力をみた。第2問では、短い会話を聞き、基本的な文法や語法に関する知識や英文を構成する力をみた。第3問では、中学生が愛読書と部活動から学んだことについて述べたスピーチを題材とし、英文の要旨を正確につかむ力をみた。第4問では、高校生が書いたコラムを題材とし、英文から大切な部分を捉え、内容を読み取る力をみた。第5問では、会話を題材とし、情報や自分の考えを相手に伝えるように適切に表現する力をみた。

理科

第1問では、感覚器官が受ける刺激に対する反応や打ち上げ花火による音の実験などを題材とし、自然の現象への関心や科学的な考え方をみた。第2問では、水酸化ナトリウム水溶液と塩酸の中和を通して、アルカリの性質や溶液中でのイオンの総数の変化などについて思考する力をみた。第3問では、オリオン座と月の観察を通して、地球と月の公転運動と天体の見え方との関係について表現する力をみた。第4問では、植物の葉の蒸散に関する実験を通して、第5問では、電流が磁界から受ける力に関する実験を通して、思考・判断・表現する力をみようとしたりした。

表現考える問題増

全体的に自分で表現を考える問題が多く見受けられた。第1問は全問基礎レベル。第2問は、昨年と比べ、文章量が増えた。自分で表現を考える問題が増え、苦戦した生徒もいただろう。

第2問は文学的文章。題材は比較的読みやすかった。問題数は昨年と比べ1問減少した。昨年から字数が55字に増えた第4の記述問題がやはり難易度が高めか。

第3問は説明的文章からの出題。記述問題は、本文中からヒントを見つけないければならないため、苦戦が強いと思われるだろう。第4問は古文。問2の記述問題の語数が減っていた。第5問は条件作文。自分の意見を書く練習を幅広く行っていた受験生は取り組みやすかっただろう。

知識活用力問われた

一発勝負の入試に変わったが、出題傾向、難易度に大きな変化はなかった。第1問は基本問題。第2問も例年通りで文章題・図形も内容を理解し落着いて解けば高度な解法は必要ない。第3問は例年の関数問題と比べ、細かい計算が少なかつた印象。「資料の活用」の要素は昨年も入っていたが、その傾向が続いたことには新鮮さを感じた。数式で求めるというよりも、条件・内容を理解し情報処理能力を問われていくような印象であった。第4問は例年通り図形。出題される内容に沿って、元々ある図形に変化を加えて解くという、基礎力と応用力を両方試すような斬新さを感じた。問題は全体を通して知識を活用できるかを試していた印象。

資料読解力が鍵に

資料からの問題が例年と比べて多い印象。読み取りや読解が鍵となった。また、記号での解答が昨年に引き続き多かった。第1問はオセアニアに関する問題で、地理・環境と深く広い知識が必要とされた。第2問は日本の古代・近世の歴史について、記号問題により、正確な知識が問われた。第3問は、企業と労働者に関する公民問題。時事ニュースのような問題もあり幅広い知識が問われた。第4問は、中部地方に関する地理と歴史の融合問題。工業に関する読解力が問われた。読み取りが複雑な部分もあり正答率は下がっただろう。第5問は、日本の鉄道と社会をテーマにした歴史問題。年代ごとの資料からの選択肢の理解が重要。

文・連語の扱い増加

第1問は例年通りリスニング。第2問では基礎的な語彙力・文法力が問われた。「名詞を修飾する文」の知識が問われたが、難易度が上がった印象はない。第3問の長文問題は、中学生のスピーチが題材。英文の要旨を正確につかむ力が試された。例年通りの和問和答・英問英答に加え、スピーチの流れに合わせて英文を並べ替える問題、感想文の空欄補充が出題された。第4問は、コラムを題材にした長文問題。出題形式に変化があったものの、極端な解きづらさはなかった。第5問は、高校生と外国人の友人の会話を題材にした英作文。与えられた情報を整理する力、適切な文法表現を選択し自分の考えをまとめる力の両方が必要。文・連語の扱いが増えた点で、速読力が鍵になった。

記述問題中心に難化

昨年と比べ、難しくなったと思われる。第1問は例年と同じく基本問題。第2問は化学。中和までの内容が知識として定着していれば容易に解けた。第3問は地学。受験生の多くが天体を苦手としているが、特にオリオン座の移動を記述で答える問題は、普段記述問題を演習している生徒でも難しかったと思われる。第4問は生物。実験結果から数値を読み取り、時間内に整理できたかがポイント。第5問は電流と運動の融合問題。昨年には出題されなかった電流の問題が出たため戸惑ったかもしれないが、普段から勉強していれば解けなはなかつた。最後の力の分解の記述問題は電流の磁界の性質にふれてまとめなければならなかつたので難しかったと思われる。